

埼玉県学力・学習状況調査（中学校）

復習シート 第三年 国語



組

番号

名前

模範解答

【「文学的文章の読解」の問題】

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ここまでのあらすじ」、瀬戸内海に面した貧しい村に、若い女性の先生が赴任してくる。

「こんどの先生、なにいう名まえ？」

「大石先生。でもからだは、ちっちゃあいい人。小林でもわたしはのっぽだけど、ほんとに、ちっちゃあいい人よ。わたしのかたぐらいい。」

「わあ！」

①まるでよるこぶようなそのわらい声をきくと、小林先生は「**ちっちゃあいい人**」のよ。」

大石先生（大きな石）
小林先生（小さい林）
⇕
ちっちゃあいい人（体が小さい）
のっぽ（身長が高い）
◎名前と身体的特徴が異なるところがおもしろい

ここが大問題というようにきくのへ 先生のほうも ここたなという顔をして
「船はきょうだけよ。あしたからみんなあえるわ。でも、こんどの先生はなかんよ。わたし、ちゃんといつといたもの。本校の生徒といきしもどりに出あうけど、もしもいたずらしたら、サルがあそんでると思つときなさい。もしなんかいつてなぶつたら、カラスがないたと思つときなさいって。」

「わあ。」

「わあ。」

みんないつせいにわらった。いっしょにわらつてそれでわかれてかえっていく、小林先生のうしろすがたが、つぎのまがりかどにきえさるまで、生徒たちは口々にさげんだ。

「せんせえ。」

「さよならあ。」

「よめさあん。」

「さよならあ。」

小林先生はおよめにいくためにやめたのを、みんなはもうしっていたのだ。先生が最後にふりかえって手をふって、それで見えなくなると、②さすがにみんなのむねには、へんな、ものがなしさがのこり、一日のつかいも、もっそりとあるいた。かえると、

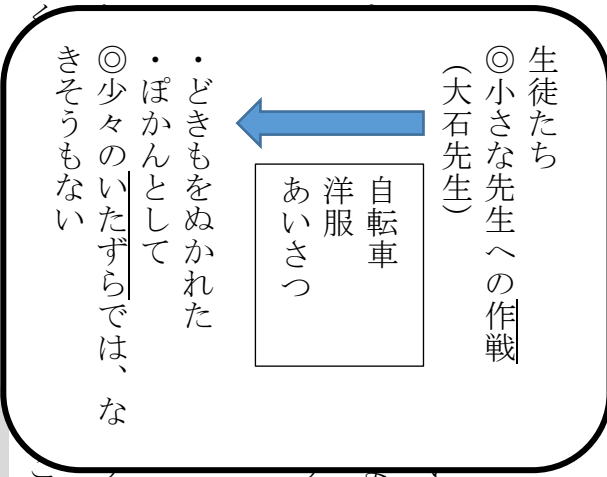
「小林先生」 「およめ」 「(先生を)やめた」 「(最後に)」 など
の言葉を用い、生徒が悲しくなった理由をまとめます。

「こんどのおなご先生は、^{注3}こんまい人じゃど。」

そしてつぎの日である。

芋女出でない、小さな先生にたいして、どきどきするような作戦がこらされた。

日が変わること



- ・どきもをぬかれた
- ・ぼかんとして
- ◎少々のいたずらでは、なきそうもない

ご先生ははじめてである。洋服をきたおなご先生もはじめて見る。はじめての日に、おはよう、と、あいさつした先生もはじめてだ。みんな、しばらくはぼかんとしてそのうしろすがたを見おくっていた。

③ぜんぜんこれは生徒のまけである。どうもこれは、いつもの新任先生とはだいぶようすがちがう。少々のいたずらでは、なきそうもないと思った。

「ごついな。」

「おなごのくせに、自転車にのったりして。」

「なまいきじゃな、ちつと。」

男の子たちがこんなふうには批評している一方では、女の子はまた女の子らしく、すこしちがった見方で、話はずみだしている。

「ほら、モダンガール^{註4}というのは、あれかもしれないな。」

「でも、モダンガールというのは、男のようにかみをここのところで、さんぱつしとることじやろ。」

そういつて耳のうしろで二本の指をはさみにしてみせてから、

「あの先生は、ちゃんとかみゆうとつたもん。」

「それでも、洋服きとるもん。」

「ひよつし^{現在} 宿屋の柱どけい^{登校中} 八分ほどすぎている

ぴか光つし

「うちら^{筆入はいっせいになりだし、}と走りる、気色がええじやろ。」

なんと^{ぞうりはほこりをまいあがらせた}なげをくわされたように、みんなが

っかりしている^{まぢがいなかつた。なんとか鼻をあかしてやる方法をかんがえ}

だしたいと、め^{い思っているのだが、なにひとつ思いつかないうちに岬の道を出はず}

れていた。宿屋のげんかんの柱どけいはきょうもまた、みんなの足どりを正直にしめして

八分ほどすぎている。

④それ、とばかり、せなかとわきの下の筆入はいっせいになりだし、ぞうりはほこりを

まいあがらせた。

（壺井 栄 「二十四の瞳」による）

（注1）行き帰り

（注2）からかってひやかしたら

（注3）小さい

（注4）今の世のはやりの女性

（注5）背負い投げ

問一 ①「まるでよろこぶようなそのわらい声」とあるが、誰の、どのようなことを聞き、よろこぶように笑っているのか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 **レベル6**

- ア 小林先生の名まえと異なり体が大きいこと
- イ 小林先生の名まえと同様に体が小さいこと
- ウ 大石先生の名まえと異なり体が小さいこと
- エ 大石先生の名まえと同様に体が大きいこと

直前の小林先生の言動から生徒が笑った原因が分かります。

ウ

問二 ②「さすがにみんなのむねには、へんな、ものがなしさがのこったのはなぜです。直前の文章から言葉を拾いまとめます。」 **レベル9**

生	小	直前の文章から言葉を拾いまとめます。
を	林	
や	先	
め	生	
、	は	
さ	お	
み	よ	
し	め	
く	に	
思	い	
っ	く	
た	た	
か	め	
ら	に	
。	先	

問三 ③「ぜんぜんこれは生徒のまけである」のはなぜか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 **レベル7～9**

- ア 先生にいたずらしようと思ったが、自転車に乗って、洋服を着て、あいさつした先生に感心したから。
- イ 先生にいたずらしようと思ったが、自転車に乗って、洋服を着て、あいさつした先生に驚かされたから。
- ウ 先生にいたずらしたが、自転車に乗って、洋服を着て、あいさつした先生に通用しなかったから。
- エ 先生にいたずらしたが、自転車に乗って、洋服を着て、あいさつした先生に逆に驚かされたから。

生徒のまけということは、生徒がしようと思ったことが逆にされたことを意味します。

イ

問四 ④「それ、とばかり、せなかとわきの下の筆入はいっせいになりだし、ぞうりはほこりをまいあがらせた。」とありますが、この表現はどのようなことを表していますか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 **レベル7～9**

- ア 生徒たちの周りを、つむじ風が吹き抜けていったこと。
- イ 生徒たちが、いっせいに家に向かって走り出したこと。
- ウ 生徒たちの筆入の中身が、いっせいに足下に落ちたこと。
- エ 生徒たちが、いっせいに学校に向かって走り出したこと。

エ

登校中であること、時間が過ぎていること、いっせいに筆入がなりだすことから、生徒たちが何を始めたのか考えます。

